

今回9月13日～17日の5日間、中国人民共和国への研修に参加した。初日は移動が主、二日目は人民大学構内見学と午後からは「農山村発展問題交流研究会」、三日目は「CuanDiXia Village」という中国における村を回り、四日目は万里の長城と買い物、五日目は移動、といった内容であった。今回は研修という形で中国に行ったが、人民大学の学生と合同で行われた学習以外にも、観光や自由行動であった夜に大学周辺の街を探索など様々なイベントや体験ができたものであった。

私は今回が初海外であったが、日本を一步出ると全く違った世界があるということを強く感じた。中国で最も衝撃的であったものはやはり人口規模であった。今回私たちを受け入れてくれた人民大学はアジア圏でもトップクラスの大学ということもあるが規模が桁違いであり、キャンパスや学部棟、図書館などが大きく、在学している学生の多さを実感させられた。また中国からの留学生から聞いたが小学校の児童数が3000人ほどであったという話も衝撃的であった。日本の人口がいずれ1億2000人で人口減が大きな問題となっている中、隣の国では桁が違う規模の人が住んでおりそのことが建物や学校などからダイレクトに伝わってくるという体験は迫力があり、決して日本では体験できない感動的で衝撃的なものであった。様々なことを日本という規模で考えさらに狭い範囲に絞り考えることも重要なことであるが、今回の研修を通じて「国」が異なれば様々なことが大きく異なり、さらにそれが集まった世界となると想像もつかない「世界」であるということが異なる国一つに行くだけでも感じられた。



四日目に行った万里の長城では巨大王朝があったことがクタクタになりながら歩きながら感じられ、また街の中心部から少し離れると大規模工事が行われていたり、今も昔もダイナミックで思い切ったことを強力な力で行っていると感じた。日本とは国土の大きさの違いもあり建物の大きさだけでは測れないが、大きく異なる点であるのではないかと興味深かった。強力な力と書いたのは、大学内含め様々なところに国旗が掲揚されておりまた国家思想を強く感じられる宣伝が数多くみられ国家が国を強力に一つにまとめようとしている側面が強力に伝わってきたからである。

また中華人民共和国のダイナミックな側面や巨大な規模を強く感じる中で多くの課題も感じられた。夜遅くまで住居の目の前で工事が行われたり三日目に行った村では観光業が行われていたが車が歩行者のすぐ近くを通りすぎたりと経済発展の中でおろそかにされていると映った光景や、今回実際に歩いてはいないがプレハブのような住居が集まっている地区などがあり外見だけから判断するのは安直かもしれないが明らかに経済発展が進んでいない場所なども見られた。大きく発展が遅れている農村部などは急に来た外国人などに見せられないという話もあったがこうしたことから、課題は多く残っていることも身に染みて感じた。個人的には農民工の出稼ぎの状況なども見てみたかった。今回の研修は比較的光の部分を見たが、その裏に広がる影の部分も垣間見られ大変考えさせられる研修であった。

私は日本の農山村、中山間地域、過疎地域などにおける経済発展や近代化の影響に興味があったが、今回研修に参加させてもらい極端とも感じるほど都市と郊外や農村部の格差や経済発展による生活の変化や影響をみせてもらえた。一つの事例として今後の研究に役立つであろう経験ができ大変有意義な研修であった。